

平成 28 年度 第 2 回 鹿島市まち・ひと・しごと創生会議 会議録

平成 29 年 3 月 27 日(月)15:00~17:00

市役所 5 階大会議室

○報告

欠席 森林組合 中島清光委員
佐賀新聞 円田浩二委員
公 募 橋村英明委員

① 会長挨拶

【中村会長】

昨日、一昨日の酒蔵ツーリズムへのご協力、関係者も多数いらっしゃるのこの場でお礼申し上げます。2 日間の主催者発表は嬉野会場を含んで 8 万人で目標達成した。各酒蔵も前年以上の売り上げがあったとのこと。ご協力ありがとうございました。

② 市長挨拶

《樋口市長》

年度末のお忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。

総合戦略が動き始めて大体 1 年が経つ。関係者や地域の皆さんのおかげで順調に進んでいる。最近、長崎放送やNHKのドラマなど、市外・県外から関心を持ってもらっている。

平成 29 年度の事業には、1 年前には想定していなかったものもかなり盛り込んでいる。この 1 年間の経験を踏まえて、交通体系は大変なことに影響すると実感を持った。人口と道路は大変関係がある。高速道路・幹線道路に近いところでは、人口の減り具合が少ない。逆に離れたところほど人口減少の影響を受けている。人口減が税収に影響すると思っていたが、現在市では人口減少しているが税収は減っていない。この理由を突き止めるのが課題ではある。鹿島市は少し成長にアクセルを踏んでいる状態にあるのか、データを確認したい。

出生数についての分析では、一番影響するのは通勤時間の長さ、次に超過勤務時間。このように、我々の考えが及ばないことも、出生や人口、経済などに影響していることもある。このようなことをお汲み取りいただき、いろいろなご意見をお伺いしたい。

③ 『鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の目標の見直し(案)について

事務局説明

(省略)

【中村会長】

事務局から『総合戦略』の目標の見直し等について説明がありましたが、ふるさと納税推進事業の事業目標の見直しについて、委員の皆様の承認を受けたくうえで変更となる。この件について、ご意見やご質問があったら、挙手のうえ、まず氏名をおっしゃってからご発言をお願いします。

(意見等なし)

【中村会長】

ご質問がないようなので、承認を採ってよろしいでしょうか。それでは、ふるさと納税推進事業の事業目標の見直しについて、承認される方は拍手をお願いします。

(拍手多数)

ありがとうございました。賛成多数ということで、見直しは承認されました。案の削除をお願いします。

④ 『鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に基づく平成 29 年度の取組みについて

事務局説明

(省略)

●質疑・応答

【松田委員(公募)】

平成 27 年度から継続して実施している事業はあるか。

《事務局》

国の交付金事業は単年度で、市から申請をして交付を受けている。継続という形では、例えば、観光プロモーション事業などは内容を変えながら継続して行っている。国県の交付金事業のうち、平成 28 年度実施分として市が採択を受けたものは、地方創生加速化交付金の観光プロモーション事業、交付金額 26,140 万円。これを 28 年度実施してきた。この成果が先ほど紹介があったように、このポスターなど。このほか県の未来スイッチ交付金で、市ではソフトで 8 事業、ハードで 12 事業取り組んだ。これらは単年度事業で、現在実績報告を提出する段階である。

【松田委員(公募)】

そのなかで、今後取り組んでいく事業はあるのか。

《事務局》

まず、県の未来スイッチ交付金は、平成 34 年度(→正しくは平成 30 年度。あとで實松委員より発言あり)までは県で予算を取っていただき実施する。これは、地域が自立、課題解決のために取り組む事業に対し交付されるもの。また、人口減少地区の公民館改修や伝統芸能の備品整備などのハード事業。これらは単年度で終わることなく、さらに拡充するということになれば、それを来年度事業として申請できる。現在、700 万程度の申請を受けている。

このほか、地方創生加速化交付金の観光プロモーション事業は、28 年度で終了するが、その後取り組むとすると、地方創生推進交付金等で新たに申請が必要。

今年度申請したものとしては、県が浜駅の整備について、採択を受けられている。市としては、駅周辺整備を行う予定。また、移住対策事業について、市として申請しており、採択受ければ事業実施となる。

【松田委員(公募)】

平成 29 年度の取組みに事業計画に載っていない部分は、継続して実施していくということでよろしいか。

《事務局》

そのようなご理解でよい。

【一ノ瀬委員(公募)】

No.35のファミリーサポートセンター事業で、依頼会員と提供会員のマッチングを行うということだが、身内同士か、赤の他人になるのか。具体的に何を使って連絡をするのか。ケータイのメールを使えないと不利益が生じるのか。

《福祉課》

ファミリーサポートセンター事業は平成 29 年度から取り組むもので、かたらい 3 階の子育て支援センターの中に設置する。あくまでも、援助を受けたい人と援助をしたい人をつなぎ合わせる事業なので、身内同士は想定していない。

マッチングについては、直接会員同士のやり取りはせず、センターの嘱託職員を通じて会員とのやり取りを行うこととなる。

【一ノ瀬委員(公募)】

連絡の方法は、電話なのかメールなのかを知りたい。

《福祉課》

ご利用をいただくときは、まずは登録をしていただき、援助を受けたい会員についてはお子さんと一緒に、センターの職員と面談を受けていただき、アレルギーやどういたお子さんかをうかがった上で登録していただく。同じく、援助をしていただく会員についても面談をしていただく。

【大庭委員(区長会)】

5 ページの地域おこし協力隊事業について、都会の人がこっちに来るということだが、都会の人に募集していることをどういう方法で知ってもらうのか。

《都市建設課》

地域おこし協力隊については、都市部から来ていただくのが条件。地元にはわからないものを外部の人に見てもらい、地方の活性化等に協力してもらう。3 年という短い期間だが、一緒に地域の人と活動してもらい、最終は定住となっている。この事業を活用して、戦略的に地域の活性化を図りたいと思っている。

【大庭委員(区長会)】

趣旨はわかるが、どういう募集やり方をするのかということだが。

《都市建設課》

目標は都心ということで、東京や大阪になると思うが、鹿島の活動拠点を肥前浜宿と考え、この地域の情報をホームページやフェイスブックで全国に向けPRしていく。発信した情報を多くの方に見ていただき、鹿島に来てもらい、交流人口の増を図りたい。

《樋口市長》

大庭委員のご心配は、どういった人がくるのかということだと思う。これは、物見夕山ではできない。紹介するには各省庁がからんでいる。マッチングが必要。両方の需給事情はとられていると思う。我々が希望したのは、最終的には鹿島に住んでもいいという人だが、実態は全員がそうではない。最初にきちっとこちらの希望する人材がどういった人か見せないといけない。

【松尾委員(文連)】

未来にはばたく子ども育成事業について、科学分野に興味を持たせるというのは喜ばしいことだが、鹿島は観光と文化でもっていると思う。文化連盟の会員も 1,200 人くらいで、太良や嬉野、有明の会員も多くいるが、鹿島がこの周辺の文化の中心地なので、そういう文化を担う人材を育ててほしい。

観光だが、中木庭ダム周辺にアジサイを多く植えられており、きれいで観光客も多い。これが今後どうなるのか。

以前自分が区長だったころ、だご汁屋の隣に店を出すということにしていたが、水飲み場の人々がものすごく反対されて、それからそのままになっている。佐賀市のダムができたところには観光客が多く来て、地場産の野菜などを買って帰られている。中木庭にも店を出して、地域産業を活性化させていただきたいと思うがその点はどうなっているか。

《都市建設課》

1 点目のアジサイについて、ダム周辺に年次計画で 5,000 本程度を植えて、年間 500 本を振興会等へお願いして継続して取り組んでいる。

2 点目の食事処の件だが、反対されている方との話し合いが継続中で、振興会が努力されている。同じ能古見地区の人が中心なので、一緒になってできるよう、食事処の横の活用も含めて、振興会の会長さんなどにも案を出していただき、対応していきたい。

【松尾委員(文連)】

水飲み場の客層とだご汁屋の客層は違うと思うが、それをなぜこうも反対されるのか、また 10 年間も経っているのに反対を押し切ってできないのか。その辺が疑問だが、これから是非推進してほしい。

先日吉田病院の方が来られて、吉田能舞台を管理できないとの相談を受けた。佐賀の人が、解体して購入してもよいという話もあるとのこと。あれだけのすばらしいものを鹿島にぜひ残してもらいたい。市から財政支援をいただかないと維持できないので、市に要望に来ようと思っているので、よろしくお願ひしたい。

《樋口市長》

全国的に水準の高い、東京にある各流派の能舞台と同じレベルのものが存在しているということは承知している。そういうものをどうやって残すか。関係者の方は大事だと仰るが、そういったものが多くあるので、優先順位をつけないといけない。

【一ノ瀬委員(公募)】

33 と 34 番の保育所について、市からの運営費が交付されていると思うが、私は実際 2 人の子を保育所に預けたが、1 人目のとき高すぎると思い、2 人目のときどうなるかと思って、7 年も離して産んだ。保育料が武雄市よりも高いそうだが、下げてもらったら続けて子どもを産めると思う。どういう風に決まっているのか、実際高いと思うが、福祉課の方にお伺ひしたい。

《福祉課》

県内の保育料の一覧表を持ちあわせていないので、後ほどお示ししたい。杵藤地区の中で鹿島市が高い方ではない認識である。他のところでも鹿島市より高く設定されているところはある。保育料については、国の徴収基準額があり、そこから各市町が負担をして引き下げることになり、保護者の所得に応じて保育料が決まることになる。29 年度には、ひとり親家庭については、一定の所得未満の 2 人目を無料化するなど国の制度も変わっていくの

で、それに合わせて市でも検討していきたい。

【松尾委員(文連)】

所得に応じての保育料なので、所得に応じてころっと変わる。農家は引き下げて安い、給料が高い人は高くなる。その辺不公平な感じがする。所得に応じた徴収は考えてもらわないと、なかなか難しいと思う。

《福祉課》

所得に応じてということだが、農業、自営業の方は確定申告の結果によって税額が決定し、それから保育料が決定する。自営業の方とサラリーマンの方と比較するのは大変難しいが、申告の結果で保育料を決めており、所得に応じて細分化している。第1子、第2子を同時に預ける場合に負担が大きくなるということだが、あくまでも応分の負担ということで設定をしている。

【松本委員(漁協)】

今5歳と2歳の子どもが海童保育園にお世話になっている。海苔師なので、水揚げによってその年の年収が違い、保育料も違ってくる。私からすると、この金額でよく2人の子どもを見てくれていると思う。今は海苔自体が悪いので安い金額で見えていただいているが、万が一水揚げが数千万となったときには、それなりの保育料になると思う。でも、その水揚げに対しての保育料があったからといって、保育園に預けないのか、2人目3人目やめようかという実際そうではない。会社勤めの方からすると、同じ保育園に預けているのに上限の負担、別の方は最低額で預けられるというのを快く思っていない人もいるかもしれない。安いにこしたことはないと思うが、自営業から見ると、鹿島市が高い、高いのにこのくらいしか見てくれないという不満は、今はない。安くなったらラッキーとは思いますが。

【一ノ瀬委員(公募)】

低所得で団地に住んでいたのに、団地の家賃より高かった。

《樋口市長》

保育料が、他の公共料金と違うところを2つだけご理解いただきたい。安いといっても保育園がまけるわけではないので、誰かが払わないといけない。誰が払うかというときに、国が基準を決めている。そこから市が負担をして引き下げている。その下げ方が、いろいろな町の事情があるので、違うかもしれない。もともとの国の基準からきているというのをわかっていただきたい。

それから、他の料金と一番違うのは、所得によって違うということ。保育園に出さず自宅で見られる方もおられ、負担をしておられる。そういう不公平があるという声も片方である。現状は、一番高いので7万円くらいで、一番低い方は無料。この差が適切かどうか議論はある。鹿島市が無茶苦茶高くはしていない。

この2つだけご理解いただきたい。

【高松委員(老連)】

14ページの異世代間交流事業についてお礼を言いたい。各地区で、新しい器具を購入し、メーカーから派遣を受け指導してもらっている。

7ページの祐徳神社を核として市内回遊の仕掛けづくり、観光客の市内回遊の仕組みづくりについて、市長さんに宿題にしておこうかな。湯ノ峰山は500メートルしかないが、熊本からも見える。また、頂上からは、有明海をパノラマで眺められる。祐徳外苑から湯の峰山まで1キロしかないので、ケーブルカーをかけて、湯ノ峰山を開発して、観覧車をつくるか、子どもたちの遊園地にするか、臥竜ヶ岡に下って大きな駐車場を作って、リムジンバスで酒蔵

を廻るなど、そういう構想がいいと思うが、10億円はかかる。どこからか10億円ひねり出す方法を考えてほしい。

祐徳神社の大型バスの駐車場が上古枝にあるが、これでは祐徳門前を観光客が通らない。下に造って通るようにしなければならない。

《樋口市長》

第6次総合計画をつくるときに、小学生にこんな市になればいいなという作文を募集した。そのなかに同じような発想のものがあった。行政の人間から言うと、夢ならいいが計画にするには落差がある。そんなことを頭に描いたらいけないということはないが、どのくらいの夢を描けるか。一つのアイデアとしてあったらいいと思う。これからは10年後に人工知能やロボットが発達すると人間がすることはなくなり、観光くらいしかすることがないという世の中になると、そういったものを持っていたほうがいいのかもわからない。ただ、鹿島はそういう人工物の観光ではなく、もっと自然や近辺にあるものに磨きをかければ、相当観光の資源になるものがあると思う。

祐徳院の駐車場の話は、地元で話しをつけてもらわないといけない。停めるなというわけにはいかない。ある観光地で、同じようなケースのところがあつ、どうやってバスの客を呼び込んでいるか聞いたら、「簡単ですよ、バスガイドさんに握らせたら」。私がそういうわけにはいかないが、皆さんいろんな知恵を絞っておられる。

実は、国土交通省の下水道部が、門前を中心に下水道でまちおこしようという試みを予定されている。これは全国で仙台市と2箇所対象となる。その一環として、市内周遊の話もつくれたらいいと思う。

【松田委員(公募)】

県の方にお尋ねします。県下一斉にこういった会議をされていると思うが、市町に対してどういったことを期待されているのか。それと、県として今後どういった対応を考えておられるのか。参考のためにお伺いしたい。

【實松委員(県)】

県としては、各市町それぞれ総合戦略を策定され、この中に自分たちの地域をどうするかということが盛り込まれているので、とにかくこれを実現していくことを期待しており、県も総合戦略を策定しているのでそれを実現したいと思っている。県では市町の取組みについて、こういう会議で意見を申したり、また日頃から相談にのるなど対応したいと考えている。

先ほど保育料の話が出たが、値下げのことだけ言うと誰でも安いほうがいいということになるが、どこかで誰かが負担をしているということになる。全体を見たときに、どれが一番適当かということをしっかり考える必要がある。

戦略や取組みの資料を見ている、働く場というのは大事であり、企業誘致や就農者を増やす取組みなど、非常にいい取組みが盛り込まれていると改めて思っている。ぜひしっかり進めてほしい。

先ほどの事務局の説明を補足させていただく。県の未来スイッチ交付金について、鹿島市では積極的に利用されている。この交付金制度は、28年度から30年度までの当面3年間で制度化しており、しっかり予算を確保していく。ただ、事業の進捗の状況に合わせて、次の支援策を検討していきたいと思っている。市の戦略は31年度までになっているので、いろいろな状況を踏まえて取組みを進めていただければと思っている。

地域おこし協力隊について、県でも5名採用予定。人材の集め方は、東京での移住相談会に合わせて地域おこし協力隊の募集フェアが開催されており、そこには地方に住んでみたい、働きたいという人が集まるので、そこで募集をする。県では5名の採用に7名の応募があり、まだ3名しか採用を出していない。20~30歳代の人。地方で暮らして何かやりたいという人が、案外多いということを改めて感じた。

このようなことを各市町へ伝えながら、一緒になって進めていきたいと考えている。

【松田委員(公募)】

市でも樋口市長を筆頭に、他の市町より地方創生の取組みを協力にしていると思うので、県でも補助金など特段のご配慮をお願いしたい。

【松本委員(漁協)】

鹿島に嫁いできて、いいところだと感じていたが、あまりにも地元慣れすぎて何も無いと思い込んでいた。先週名古屋の友人が、テレビを見て祐徳神社にぜひ行きたいと言ってきた。その友人はお酒も好きで、マップルとるぶを持ってきていたが、自分たちが知らないだけで、鹿島もたくさん宣伝されていた。一週間遅かったら酒ツアーだったのといいながら、肥前屋のオープンに行った。一般のお客さんは肥前屋のような店があり、酒蔵が見られたりするのを望んでいるのかなと感じた。しかし、酒ツアーのようなイベントのときしか、酒蔵見られない、試飲もできない。だから、イベントのときに人が集まるんだなと思った。

その後祐徳神社に行ったところ、友人にこっちに言ったら何があるのと聞かれたが、お店があるがもっと先には何も無いと伝えたところ、友人は酒蔵と祐徳稲荷神社を合体したらいいと言った。交通の便が悪いので、門前の空き店舗で酒の試飲ができる場所があればいいと思った。

宣伝不足のところある。あんまり凝り固まりすぎ。この会議もスーツだめとかにすればもっと気楽に話せるのではないか。

《樋口市長》

率直に言って、今言われたことは当たっていると思う。これからどうすればいいかという、先ほど浜駅周辺を整備すると説明をした。国交省下水道部が門前を中心に「カラフル鹿島の形成」と言っている。これが軸となり、おっしゃるように連携できればと思っている。軸1本では大変なので、海沿いの軸を作ろうと、ラムサール条約登録地、ガタ会場、道の駅。韓国のクツラヘラサギの繁殖地がだめになる可能性が出ている。ここに浜が似ている。そうすると縦軸ができる。従来は点だったものを、面に広げる発想を持とうということ。そこに中木庭ダム周辺などが加わると違って来る。仰るように、外向きの発想が不足しているし、点ばかり発信しているので、今後は面で考えていきたい。

鹿島の人で東京にいる人に一番驚かれたのは、箱根駅伝の選手が合宿していること。これが一番話題になる。地元の関心、むこうの無関心、世間の常識、地元の非常識。仰ることに少しでも応えられるような状況になるようにしていかないといけないと思う。

【山口委員】

地域おこし協力隊について、募集の方法は實松委員の説明でよくわかった。浜の情報発信を行うということだが、一次産業が過疎化・高齢化の状況なので、そこが人材を欲しがっているのではないか。そういったところに、地方に染まっていない新しい感覚を持った人に来てもらって、我々が気づかないような資源を発掘してもらおう。地域おこしなので、浜の情報を発信するより、現状抱えている課題はそっちの方が大きいのではないか。地区振興会の活動を活性化するためにも、そういうところで活用したほうが鹿島市にとってよりいいのではないか。

青年活力啓発事業について、60歳を越され退職した人で地域に貢献したいという、志高い人もいると思う。桜マラソンでも50~60歳代が500~600人走ったとのこと。青年は時間的に忙しいと思うので、60歳以上の人で意欲のある方を社会で活用してもらおう。そういう機運を作ってもらうには、市が行うのが手取り早いと思う。

未来にはばたく子ども育成事業について、市としてスーパーサイエンスハイスクールを導入してはどうか。到達館が2期目をされている。設備がいるわけでもない。地元がいい学校があったら、そこを目標にするし、周辺市町からすでに鹿島高校に来られているが、一層増える。地域全体の教育レベルを上げると思う。

《教育総務課》

先ほどのご質問にあったスーパーサイエンスハイスクールについては、直接は県教育委員会の所管となるので、市からお答えできない。小中学校の連携では、がんばっているところである。高校については、中学校から進学する段階で意見・情報交換は必要と考えている。

【山口委員(公募)】

高校が手を上げるよう、市のためになるよう地元から鹿島高校に働きかけて欲しい。

《教育総務課》

働きかけについては、いろいろな意見を聞きながら考えていきたい。

【古賀委員(PTA)】

小中学校のタブレット端末について、主人が高校のタブレット支援をしている。先生がしたい授業内容をききソフトを組んで授業に使うということをやっている。小中学校ではソフトはどういったものを使うのか。また、支援員は必要ないのか。

《教育総務課》

ソフトについては、市で毎年デジタル教科書を導入しており、主にソフトはこれを使用している。ICT支援員については、教育委員会に配置しており、各学校に行ってもらい、支援が必要な先生に支援を行っている。

【古賀委員(PTA)】

支援員は何人いるのか。

《教育総務課》

1人。

【古賀委員(PTA)】

これから増えていくと思うが、増員の予定はないか。

《教育総務課》

各学校の先生の中にもICT推進員がいる。この方に他の先生の支援を行っていただく。あくまでも支援員は補助的な支援を行っている。

【高松委員(老連)】

14 ページの地域で活動する若い世代とは、どのくらいの方が若い世代となるのか。また、どういったものに使えるのか。

《事務局》

メンバーの名簿を出していただき、メンバーのなかで49歳未満の方が半数以上いれば青年団体としている。例えば、高松委員さんが1人で、他のメンバーに30代40代が大勢おられたら青年団体となる。

【高松委員(老連)】

75歳以上が高齢者、老人クラブの対象と思っていたが、江北などでは65歳になったら会費をもらいに行かれ、100%の加入となる。城内でも60歳以上を老人クラブジュニア部としている。90歳になった私からすればジュニアでいいじゃないですか。しかもジュニア部には9名はいる。全国的に注目を集めている。ぜひ60歳以上の方は老人会に入ってください。

【中村会長】

ありがとうございました。以上を持って、議事の4番『鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に基づく平成29年度の取組みについての質疑を終わります。

次にその他、皆さんの方から何かございますか。なければ、事務局の方からお願いします。

《事務局》

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。このご意見を反映して、29年度の取組みなど進め、総合戦略の着実な実施と数値目標の達成を通じて、市の活性化に努力していきたいと考えています。

人事異動等あると思うので、来年度は委員を改めて選出いただき、8月ごろに開催します。ぜひ、またご参加ください。

【中村会長】

それでは、時間となりましたので、これで終了とさせていただきます。最後は中川副会長に会議を締めさせていただきます。

【中川副会長】

委員の皆様、市職員の皆様、大変お疲れ様でした。また、来年度は新体制での会議となります。誠にありがとうございました。これで「第2回鹿島市まち・ひと・しごと創生会議」を終了いたします。お疲れ様でした。

《17:00 終了》